

平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号		10 03 04	中期総合計画主要施策番号		1-01,1-02,3-08		担当課	部・課	林務部 森林づくり推進課	
事業名		流域管理 森林と水特別対策事業(公共【造林・治山】)				内線		3263		
						E-mail		shinrin@pref.nagano.jp		
事業の概要等	事業の目的	「治水・利水ダム等検討委員会」において検討された流域(9流域)における森林整備を集中的に実施し、森林の洪水防止機能や水源かん養機能の向上を図る。								
	事業の必要性	[現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)] 対象流域は適正な森林整備が必要であるが、森林所有者による整備が期待できず、洪水防止機能や水源かん養等の公益的機能の低下が懸念される。								
		[原因分析(ギャップが発生している原因は何か)] 個々の森林の所有形態は、零細・分散しており、事業地が比較的奥地であることから森林所有者による整備が進まない。								
		[課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)] 県が森林整備を行い洪水防止機能や水源かん養等の公益的機能の維持・増進を図る必要がある。								
	事業内容	流域内の森林において間伐を主体とした整備を集中的に実施する。 県営公益森林機能増進事業 ([定額 250,000/ha]) 治山事業 ([国1/2～1/3、県1/2～2/3])								
実施期間	H15	～	H24	根拠法令等	森林法第193条、同施行令第12条、森林づくり指針					
成果と達成状況	事業の目指す成果			達成度(期待どおり)の判定基準(H20)			達成状況		評価	
	流域内の森林整備を実施し、洪水防止機能、水源かん養機能の向上を図る。(平成15年度から平成24年度までに流域内の9,806haの森林整備を実施する。)			流域内の森林整備の進捗について52%を目標とする。			10ヵ年計画のうち6ヵ年が経過し、計画面積9,806haに対し、5,064ha、51.6%の森林整備が実施され、目標達成に向けて順調に推移している。		a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下	
事業コスト	区 分		単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要			
	最終予算額 (A)		千円	189,904	166,998	240,943	国庫・県単	公共		
	決 算 額 (B)		千円	189,564	173,275		実施方法	直接		
	B(H21はA)のうち一般財源		千円	58,337	40,817	51,001	歳出節別内訳等	予算現額(最終予算額+繰越額等) 182,641 1箇所当りの平均工事期間 1年		
	概 算 人件費	従事する職員数	人	4.00	4.00	4.00	(単位: 千円)			
事業実績	内 容		単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績			
	森林整備面積		ha	796	722	917				
	森林整備面積累計		ha	4,342	5,064	5,981				
	進捗率		%	44.3	51.6	61.0				
事業の課題	区 分		判 定 ・ 説 明							
	事業のニーズの変化		増加	横ばい	減少	判定の説明	・洪水防止や水源のかん養など森林のもつ公益的機能を十分に発揮させ、県民の安全・安心な生活を守るため、事業を推進することは急務でありニーズは高い状態で推移している。 ・県に管理責任がある保安林や、重要な流域であるにも関わらず、森林所有者による整備が期待できない森林整備について、公的に関与し計画的に整備を進める必要がある。 ・着実に森林整備が進行することにより、公益的機能をより高度に発揮できる健全な森林の育成が実現されているが、森林の管理・経営に対する森林所有者の意識の高揚が必要であり、有効性を高める余地はある。			
	県の関与を見直す余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	有効性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	効率性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
課題の総括		重要な流域の森林について、面的な整備が進み、公益的機能の維持・向上に貢献しているが、引き続き公益的機能の発揮を維持していくためには、森林の管理・経営に対する森林所有者の意識の高揚が必要である。								